

「一つの花」本時案（2／4）

指導者 森 宏介

本時の展開

学習活動と内容	中心的な指示・発問・説明と予想される子どもの反応及び指導上の留意点
1 第1場面を音読する。 (1)復唱（読む） (2)教師の範読（聞く）	指：先生が一文ずつ読みます。声を揃えて、復唱しなさい。 ・初めは声が揃わないがだんだん揃ってくる。リズムも良くなる。 ※大きな声でテンポ良く復唱させる。（音読指導を兼ねる） 指：第1場面を先生が読みます。どんな時代だったか、その時の様子を想像しながら聞きなさい。
2 本時のめあてを知る。	説：今から、第1場面を深く読みます。今日はめあて、①戦争のはげしかったころの様子を想像すること、②ゆみ子を思う父母の気持ちを読み取ることの2つです。早速、読み取りにはいります。
3 場面を読み深める。 (1)P4-7行目～P5-3行目までを文に即して対比しながら読み深める。	指：○○さん、4ページの7行目から読みなさい。（音読）ハイそこまで。 問：この「おまんじゅう、キャラメル、チョコレート」と対になっている言葉は何ですか。（指：見つけたら、教科書に線を引きなさい。） ※「対になる言葉」に説明を加える。「先生と生徒」「男と女」等…… ※子どもが対になる言葉を見つけたら発表させ、板書する。 問：ここからが大切です。この2つは、何が対比されているのでしょうか。 つまり、「おまんじゅう、キャラメル、チョコレート」と「おいも、まめ、かぼちゃ」との違いはどんなところでしょうか。 ・子どもは、次のような違いを発表すると思われる。 ①甘いー甘くない ②おかしー食べ物 ③今と戦争の時 等 説：①～③の対比は、今と戦争の時と考えれば良いですね。戦争の時は、甘いものやお菓子など、欲しくても得られなかつたのですね。ゆみ子は、いつもおなかをすかしていたのでしょうか。だから、「1つだけ」というお母さんの口ぐせを覚えちゃつたのですね。
(2)ゆみ子を思う父母の気持ちを読み取り発表する。	問：ところで、今の時代になって、戦争があつていたころに起きていたできごとについてどんなことが書かれていますか。 ・てきの飛行機が飛んできてばくだんを落としていました。 ・町は、次々に焼かれて、はいになっていました。 ※戦争中のことについてよく読めたことを大げさにほめる。 指：次の読み取りにはいります。○○さん、6ページの4行目から読みなさい。（音読）ハイそこまで。 問：お母さんは、「なんてかわいそうな子でしょうね。」と言っています。それを聞いたお父さんは、深いため息をつきました。何がかわいそうなのでですか、お父さんは、なぜため息をつくのですか。 指：よく考えてわかったことをワークシートに書きなさい。 ※机間巡回をしながら、叙述に沿って読み取るように指導する。 指：それでは、考えたことを発表してもらいます。ハイ○○さん。 ・実際は戦争でものがないのに、ひとつだけちょうどいと言えば何でももらえると思っていることがかわいそうだ。 ・戦争はいつ終わるかわからない。そうであれば、山ほどちょうどいと言うこともかなわない。それがかわいそうだ。 ・お父さんは、戦争のために子どもが犠牲になることがやりきれないと思っている。そんな気持ちがため息となつた。 ※読み取りができた場合は、大いにほめる。また、できなかつた場合は、上記の3点に関するを補足説明を行う。 指：この活動を最後に、今日の学習を終えます。ワークシートの一番下にある今日の学習でを書きなさい。
4 学習をふりかえる。 (1)「今日の学習で」を書く。 (2)書いた内容を発表する。	※机間巡回をしながら、わかつしたことや感想を中心に書くよう指導する。 指：○○さん、書いた内容をみんなに紹介してください。 ※今日のがんばりや書き方の良い点を認め、大いにほめる。